

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	1032.50	2021/10/11
High	1063.42	2021/10/15
Low	1006.00	2021/10/12
Close	1059.00	2021/10/15

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	3726.00	2021/10/11
High	3904.00	2021/10/15
Low	3669.00	2021/10/12
Close	3888.00	2021/10/15

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	2124.00	2021/10/11
High	2207.00	2021/10/14
Low	2041.00	2021/10/13
Close	2075.00	2021/10/15

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	7655.00	2021/10/11
High	8034.00	2021/10/14
Low	7442.00	2021/10/13
Close	7611.00	2021/10/15



ニュースエクスプレス

白金、2カ月半ぶり高値 米金利低下など影響

プラチナ（白金）相場が上昇している。指標となるニューヨーク先物は14日、一時前日比4%高い1トロイオンス1064ドル台と約2カ月半ぶりの高値をつけた。米長期金利の低下や金相場の上昇が影響した。米金融大手ゴールドマン・サックスが14日、12カ月後の白金の目標価格を1200ドルとする「強気」見通しを示したことも材料視されたようだ。

日本時間15日の時間外取引でも高値圏で推移した。ディーゼル車の排ガス浄化触媒に使う白金は、自動車の減産などを受けて9月中旬に年初来安値となる892ドル台をつけていた。

一方、高騰していたガソリン車触媒のパラジウムから白金に代替する動きがあるほか、水素生成向け需要も期待されている。ゴールドマンのミッカル・スプロギス氏は「自動車向け需要はパラジウムの代替や燃料電池の需要で、電気自動車（EV）のシェアが増えても成長する」と指摘した。

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUB156MROV11C21A000000/>

鉱山生産平常化とNedbank

南アNedbank Group のEconomic Unit によると、ほとんどの生産阻害要因が消えたことで8月の鉱山生産レベルは平常に戻ったとしている。

Statistics South Africa は10月12日、8月の鉱山生産は前年比2%増、中でもゴールドが2%、鉄鉱石が1.9%、PGMが1%と増加したことで全体を押し上げたと言表した。

しかし2017年8月から2019年8月の平均より4.3% 低く、2019年8月より1.1%低いことを懸念材料としている。

Nedbankによると「PGM、クロム合金、ダイヤモンドは上記指標より多いが、これらを除くほとんどの鉱物は減産しており、銅は全体に占める割合が少ないにしろ2017年から2019年の平均より58%も少なくなっている。」

一方、鉱物生産売上は世界的に需要が増えたこととコモディティ価格の上昇で好調をキープした。

売上高は7月が前月比35%増だったが、8月は前月から35.1% 増えた。中でもPGMが55.1%増加し、全体を18.9%押し上げた。

<https://www.miningweekly.com/article/mining-production-levels-normalising-says-nedbank-2021-10-12>

ノリリスクニッケル、パラジウム供給不足を下方修正

世界的パラジウム生産車である露ノリリスク・ニッケルの幹部がロイターに語ったところによると、自動車産業の回復の遅れを理由に今年と来年のパラジウムの供給不足予測を下方修正した。

パラジウムを浄化触媒装置に使用する自動車メーカーが半導体不足で減産に踏み切ったために世界のパラジウム需要は減少している。

ノリリスク・ニッケルは世界的パラジウムの約44%を供給しているが、2021年は6.2トン、2022年は9.3トンの供給不足となるというのが現在の予測であると、ノリリスク・ニッケルのセールスのトップAnton Berlin。

同社は、二箇所の所有鉱山で浸水被害に見舞われた後に生産量の下方修正を行い、これまで2021年は28.0トン、2022年は 21.8 トンの供給不足となる予測を立てていた。

Berlin 氏は年間でパラジウムの83%を消費する自動車市場は2023年には正常化するだろうとしている。

ノリリスク・ニッケルはまた、世界最大の高品位ニッケル生産者でもある。2020年のパラジウム販売量は12%減って80.9トン、ニッケルは4%減って22万1000トンだったが、2021年のパラジウムとニッケルの販売はこれと変化ないだろうとしている。

「昨年はコロナ禍で売却できなかったものがあり、今年は経済回復の様子見て販売を抑えた。今年は減産したが、余剰ストックがあったために救われた。」とBerlin 氏。

また、Berlin 氏はノリリスク・ニッケルのグローバル・パラジウム・ファンドからの売却のおかげで今年の契約上の義務を果たすことができた、ともしている。同ファンドはロシア中央銀行などからパラジウムを買い上げ世界の市場に売却している。

2021年上半期の同社のパラジウム販売は 6% 増えて 41.9 トン、ニッケル販売は 1% 減って 9万8000 トンだった。

Berlin 氏によると在庫は2021年末までには正常レベルに戻るという。

同氏はまた、今年のニッケル市場の供給不足は7万トンで2022年は10万トンの余剰となるだろうとしているが、同社の2022年の予測にはインドネシアの輸出規制の可能性は考慮されていない。

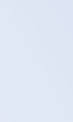
同氏はまた、中国の電力不足危機は市場にさほど影響を及ぼさないだろうとしている。

中国では石炭不足による電力不足に陥っており、そのため世界最大の金属消費国である中国の経済成長の鈍化を予測するアナリストもおり、電力使用量の制限のために9月の工場操業が一部影響を受けた。

同氏は「この電力危機は短期的なものであると信じたい」と述べた。

<https://www.miningweekly.com/article/nornickel-slashes-forecast-for-palladium-market-deficit-2021-10-11>

Translated by Kazuko Osawa, JBMA



WPIC直近の活動

- ガラス産業の2021年のプラチナ需要は最新予測によると69%増え、昨年の12.2トンから20.5トンになるとされている。工業分野全体のプラチナ需要では、ガラスは2020年には6%を占めていたが、今年は9%になる予測。詳しくはプラチナ豆知識「プラチナとガラス」（2021年10月13日）をご覧ください。<https://platinuminvestment.com/about/60-seconds-in-platinum/2021/10/13>



(@wpicjapan)

免責事項：本資料は情報提供に過ぎず、WPICの投資提案を意図するものではなく、また、そのように解釈されるべきでもありません。